

細見美術館



The Paintings
of Sengai and
Nabeshima Ceramics

from the Yuji Kamio Collection
: Coming Face-to-Face with Beauty

仙厓と鍋島

神尾勇治コレクション

— 美と向き合う、美を愉しむ —



10月4日[土] 平成26年
~12月14日[日]



SENGAI &
NABESHIMA



神尾勇治コレクション

仙厓と鍋島

—美と向き合う、美を愉しむ—

平成26年 10月4日(土)～12月14日(日)

今秋、細見美術館では40年にわたって古美術品を蒐集されている神尾勇治氏のコレクションより、画僧 仙厓の書画と、磁器 鍋島の名品を紹介します。

臨済宗古月派の僧 仙厓義梵(1750～1837)は、博多・聖福寺の住持を20年勤め、洒脱で飄逸な禅画を多く遺しています。職業絵師とはちがった面白さ溢れる作品は、その魅力故に多くの人々に愛されています。

一方、鍋島は佐賀・鍋島藩の藩窯で、藩主の所用品や贈答用に製造されてきました。洗練・精巧をきわめた華麗な作風は、現代にも伝承されています。

奇しくも、ともに九州という土地で育まれた絵画と陶磁器。コレクターの目を鍛え続けてきた、美の緊張感と面白さ。個性豊かな作品の数々をお愉しみください。

神尾勇治コレクション

神尾勇治氏のコレクションは、40年以上前、伊万里・柿右衛門・鍋島といったやきものの蒐集から始まりました。やきものの好みは次第に鍋島に傾き、特に「色鍋島」や「鍋島染付」などの優品を多く蒐集されています。

また、仙厓の作品と出会って以降は、禅画蒐集にも力を入れ、白隠、東嶺、遂翁、豪潮等の作品も含めて、禅画コレクションは100点以上。そのうちの8割は仙厓作品で、“あくび布袋”の画をはじめとするユニークで親しみやすい作風のものから、風景画まで多岐にわたります。

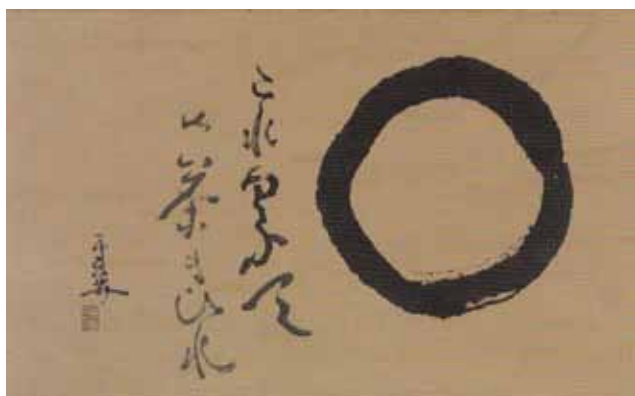
現在では仙厓と鍋島作品が神尾コレクションの二大柱となっています。

展示構成 >>>

1 仙厓(1750~1837)

江戸後期に活躍した臨済宗古月派の画僧。法名は義梵。寛延3年(1750)、美濃国武儀郡(現・岐阜県関市)で、井藤甚八の子として生まれる。11歳の時に美濃清泰寺で得度し、19歳で武蔵国永田(現・横浜市)東輝庵の月船禅慧に師事。32歳から諸国を行脚し、39歳の時に京都から博多に下って聖福寺の盤谷紹適に相見。翌年、聖福寺第123世となる。以後、62歳までの二十余年を住持として博多で過ごした。

住持を退隠した後は、禅の教えを伝えるため、本格的に禅画を描き始め、天保8年(1837)に88歳で亡くなるまで多くの書画を遺した。伸びをしている愛らしい布袋図に代表されるような、ユーモアに溢れる温かい画風で当時から多くの人を魅了し、現代においても高い支持を得ている。



仙厓 円相画賛



仙厓 鍾馗画賛



仙厓 布袋画賛



仙厓 寿老人画賛



2 鍋島

鍋島は17世紀～19世紀にかけて、現・佐賀県伊万里市の大川内山にあった、鍋島藩の藩窯で焼かれた磁器である。

藩窯という性質上、藩の厳しい統制下に置かれ、品質確保と製作技術の漏洩防止が徹底された。また、主に藩主の所用品、あるいは将軍への献上品、大名・公家への贈答品として製造され、庶民への流通は制限されていた。そのため製造においては妥協を許さず、精巧な技術と優美な意匠で独自に洗練された美意識を築き上げ、高級磁器としての地位を確立した。

明治4年(1871)の廃藩置県によって藩窯が閉鎖されたことで、鍋島製造も廃止を余儀なくされたが、その伝統と技法は現在にも受け継がれている。



鍋島 色絵五方唐花文梅形皿



鍋島 染付桃文皿



鍋島 色絵櫻花籠文皿



鍋島 染付青磁宝尽文大皿

基本情報・お問合せ >>>

神尾勇治コレクション

仙厓と鍋島 一美と向き合う、美を愉しむ—

平成26年 10月4日(土)～12月14日(日)

主 催 細見美術館 読売新聞社
後 援 読売テレビ
協 力 株式会社アーテファクトリー
開館時間 午前10時～午後6時（入館は5時30分前まで）
休館日 毎週月曜日（祝日の場合、翌火曜日）
入館料 一般1,100円（1,000円） 学生800円（700円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
会 場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
TEL 075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>
出品作品点数 約75点

お問合せ先：広報担当 三宅 由紀
TEL/ 075-752-5555 FAX/ 075-752-5955
E-MAIL/ kouhou@emuseum.or.jp

【期間中のイベント(予定)】

アートキューブレクチャー

「仙厓と鍋島の魅力—神尾勇治コレクションの精華—」

日 時 11月1日(土) 14:00～

講 師 荒川 正明氏(学習院大学 教授)
浅井 京子氏(早稲田大学 會津八一記念博物館 特任教授)

会 場 京都市勧業館(みやこめっせ) 大会議室